

2024年度 日本アーカイブズ学会 総会

【 総 会 次 第 】

- 1 開 会
 - 2 会長挨拶
 - 3 議長選出
 - 4 定足数の確認
 - 5 議 事
 - (1) 2023年度事業報告 (資料1)
 - (2) 2023年度決算 (資料2)
 - (3) 2023年度会計監査報告 (資料3)
 - (4) 2024年度事業計画 (資料4)
 - (5) 2024年度予算 (資料5)
 - (6) 役員改選 (資料6)
 - (7) その他
 - 6 その他
 - (1) 2023年度認定登録アーキビスト (資料7)
 - 7 閉 会
- <参考資料>
- ・会 則
 - ・総会運営規程
 - ・役員選出規程

※当日はこの資料をお手元にご用意ください。

2024年4月20日
日本アーカイブズ学会
The Japan Society for Archival Science: JSAS

資料1

2023年度事業報告（案）

1. 大会、委員会、および研究集会等の開催・準備

(1) 2023年度大会の開催

2023年4月22日（土）・23日（日）の2日間、中央大学多摩キャンパスにて2023年度大会を開催した。開催方式は、対面・オンライン併用のハイブリッド方式とした。講演会・自由論題研究発表会・企画研究会の参加申し込み数は、合計203名であった。

<総会>

定足数確認時点で191名の正会員が出席または委任状を提出しており、成立した（正会員数452名、定足数46名）。2022年度事業報告・決算・会計監査報告、2023年度事業計画・予算が採決により承認された。

<講演会>

テーマ：「日本のアーカイブズ保存論」

講演者：青木睦（元国文学研究資料館准教授）

<自由論題研究発表会>

【第1セッション】

田口一博「地方議会資料における会議録の意味とアーカイブズ学との関係」

堀内暢行「電子記録管理における電子メール特殊性

—電子帳簿保存法への対応を事例として—

橋本陽「AI vs HI：日本のアーカイブズの実務にAIを導入するための前提を考える」

浅野真知「診療録（カルテ）の情報開示をめぐる諸問題

—情報開示請求の事例から考察する—

【第2セッション】

池永禎子「国立療養所大島青松園社会交流会館蔵「林記念文庫」に関する考察

—アーカイブズ学の視点から—

林美帆・除本理史「岡山・水島の公害資料館開設におけるアーカイブズの活用事例」

齋藤歩「1980年代米国の「建築図面アドバイザー・グループADAG」における国・地域と専門領域の交わり—欧州またはアーカイバル・コミュニティからの参加者に注目した議事録分析」

香村由佳「近現代建築物に関する記録の管理と記述について

—旧朝香宮邸を事例として—

<企画研究会>

テーマ：「アーカイブズ編成・記述の現在—国際的動向を背景に—」

スピーカー：

清水邦俊（国土館史資料室）「民間史料における編成と記述の再確認

—整理現場の視点から—

千代田裕子（東京大学文書館）「東京大学文書館におけるシリーズ・システム導入の試

—現状と課題について—

元ナミ（東京大学文書館）「アーカイブズ記述の新標準：Records in Contexts (RiC) をめぐる最新動向と今後の展望」

論点整理：坂口貴弘（創価大学）

(2) 委員会の開催

2023年 5月20日(土) オンライン開催
2023年 6月16日(金) オンライン開催
2023年 7月19日(水) オンライン開催
2023年 9月20日(水) オンライン開催
2023年10月30日(月) オンライン開催
2023年11月 4日(土) オンライン開催
2023年12月11日(月) オンライン開催
2024年 1月24日(水) オンライン開催
2024年 2月27日(火) オンライン開催
2024年 3月14日(木) オンライン開催
2024年 4月 9日(火) オンライン開催

(3) 研究集会等の企画・開催

① 研究集会の中止

2023年11月3日(金) 16:00~18:00の日程でオンライン開催を予定していたアンドレア・ホーマイヤー氏(ドイツ、エボニック インダストリーズ社)の講演「過去に学び、現在と向き合う—エボニック インダストリーズ社の想起の文化と企業アーカイブズ」は、講演者体調不良のため中止となった。

② 研究集会「地域の歴史・文化とアーカイブズ—博物館の活動を中心に」

日時：2024年2月12日(月) 14:00~17:00

開催形態：オンライン

スピーカー：

原田和彦(長野市立博物館)「令和元年台風19号災害と長野市立博物館の活動—ボランティアと博物館—」

大本敬久(愛媛県歴史文化博物館)「西日本豪雨からの復興と地域文化の再構築」

泉田邦彦(石巻市博物館)「博物館資料としての研究者アーカイブズ—中世史研究者大石直正旧蔵資料の現状と課題—」

島立理子(千葉県立中央博物館)「千葉県立中央博物館の画像資料の整理と公開」

コーディネーター：

河野未央(尼崎市立歴史博物館・あまがさきアーカイブズ)

主催：日本アーカイブズ学会

共催：人間文化研究機構広領域連携型基幹研究プロジェクト「横断的・融合的地域文化研究の領域展開：新たな社会の創発を目指して」、歴博ユニット「フィールドサイエンスの再統合と地域文化の創発」、国文研ユニット「人口減少地域におけるアーカイブズと歴史文化の再構築」

地域の歴史的資料を所蔵する様々な現場からの報告ということもあり、参加登録者はアーカイブズ・博物館関係者など103名、実際の参加者も常時接続ベースで72名(ピーク75名)と盛況であった。被災地域での市民を巻き込んだボランティア活動、地域防災計画と史料保存、個人資料の受け入れ・整理における課題など様々な論点が提示され、活発なディスカッションが行われた。

(4) 2024年度大会の準備

日本アーカイブズ学会2024年度大会を、2024年4月20日(土)・21日(日)の2日間、対面・オンラインを併用する形式で開催することとし、以下のような内容で総会、講演会、自由論題研究発表会、企画研究会の準備を進めた。

4月20日（土）

<総会>

<講演会>

講演者：加藤陽子（東京大学大学院人文社会系研究科歴史文化学教授）

テーマ：「日本近代史の中の公文書—そこから何がわかったのか—」

4月21日（日）

<自由論題研究発表会>

【第1セッション】

渡邊健，大森真理子「医療観察事件に関する記録の利用と保存—被害者の権利利益の観点から—」

阿部伊作「ハンセン病療養所の資料保存・継承をめぐる：人権に関わる資料とアーカイブズの役割について」

藤原孝公「福祉分野における記録のアーカイブを巡る現状と課題—ケース記録の収集、整理、保存を中心として—」

阿久津美紀「個人情報を含む記録の評価・選別と利用—少年裁判の記録廃棄から考える—」

【第2セッション】

菅真城「MLA専門職の非正規化と日本型雇用・公務員制度—アーキビストを巡る制度に焦点を当てて—」

石川雄大「海軍省における機秘密文書の実態—敗戦時に焼却された「公文提要」の復元から—」

高見純「近世ヴェネツィアのスクオーラ・グランデにおける記録形成と管理」

大木悠佑「記録管理法制度とアーカイブズ機関の機能に関する—考察—クイーンズランド州公記録法の2023年改正を事例として」

【第3セッション】

香村由佳「メタデータ評価と改善—立教大学共生社会研究センターの実践」

橋本陽、阿久津美紀、元ナミ、逢坂裕紀子、小澤梓、平野泉、堀内暢行「AIによる公文書への影響：I Trust AIの枠組みと日本チームの活動」

堀内暢行「人文・社会学系研究データのアーカイブズ構築に向けた—試論—：大学が果たす役割を中心として」

中村友美「パフォーマンスアーツ資料の記述のためのメタデータ：スイス・パフォーマンスアーツ・データモデルの統制語彙から考える」

<企画研究会>

テーマ：「公文書管理制度の再検討—司法資料の保存と利用を中心に—」

報告：

下重直樹（学習院大学）「司法文書の管理をめぐる制度と組織」

浅古 弘（早稲田大学）「裁判記録の現状と課題を考える」

藤野裕子（早稲田大学）「歴史研究から考える裁判記録の保存・公開」

2. 機関誌の発行

(1) 2023年度の発行状況

①『アーカイブズ学研究』第38号（A4判、105頁） 発行日：2023年6月30日

【主な内容】

論文：金甫榮、渡邊英徳「組織アーカイブズにおける真正なデジタル記録の長期保存の要件—Archivemataを用いた検討—」

小特集 2022年度第1回研究集会

講演：エイドリアン・カニングム（大木悠佑、大西智子、清原和之、下重直樹訳）「レコードキーピングにおいて世界を先導するオーストラリアの革新—それを支えた人々、出来事、環境—」

参加記

中村友美「エイドリアン・カニングム先生講演会「レコードキーピングにおいて世界を先導するオーストラリアの革新—それを支えた人々、出来事、環境—」参加記—シリーズ・システムに注目して—」

渡邊佳子「エイドリアン・カニングム先生講演会「レコードキーピングにおいて世界を先導するオーストラリアの革新—それを支えた人々、出来事、環境—」に参加して」

動向：田口志織「認証アーキビスト養成コース開設記念シンポジウム「アーカイブズ専門職拡充と大学の役割」参加記—「民主主義の根幹」を担う人材育成に向けて—」

書評：高山征季『バチカン図書館所蔵マリオ・マレガ資料の総合的研究』

②『アーカイブズ学研究』第39号（A4判、110頁） 発行日：2023年12月31日

【主な内容】

特集【2023年度大会関係】

企画研究会「アーカイブズ編成・記述の現在—国際的動向を背景に—」

趣旨説明

清水邦俊「民間史料における編成と記述の再確認—整理現場の視点から—」

千代田裕子「東京大学文書館におけるシリーズ・システム導入の試み—現状と課題について—」

元ナミ「アーカイブズ記述の新標準

：Records in Contexts (RiC) をめぐる最新動向と今後の展望」

坂口貴弘「アーカイブズ編成・記述の現在：3つの壁を越える」

参加記

田中智子「日本アーカイブズ学会 2023 年度大会に参加して」

坂本昭彦「日本アーカイブズ学会 2023 年度大会参加記」

動向：森井雅人「「労働アーカイブズの現状と課題

—法政大学大原社会問題研究所の事例より」を聴講して」

書評：田口一博『行政情報法制の現代的構造』

古賀崇『続・アーカイブズ論—記録のしくみと情報社会—』

井上奈智『デジタル時代のアーカイブ系譜学』

紹介：平尾直樹『公文書管理法時代の自治体と文書管理』

新見克彦『刑事司法記録の保存と閲覧—記録公開の歴史的・学術的・社会的意義—』

柏原洋太『公文書管理—自治体条例制定・文書管理保存実務—』

(2) 論文等の投稿状況

2023年4月から2024年3月までに論文4本の投稿があった。

(3) 機関誌の電子化

2024年3月末までに第36号（2022年6月刊行）、第37号（2022年12月刊行）を、科学技術振興機構（JST）「科学技術情報発信・流通総合システム（J-STAGE）」にて公開した。

3. 学会普及および対外交流活動

(1) 出版助成

2023年11月1日から2023年12月31日までの間、申請を受け付けたが、応募がなかったため助成を実施しなかった。

(2) 海外関係機関との交流

①国際アーカイブズ評議会 (ICA)

ICAアブダビ大会が、2023年10月9日から同月13日までアブダビで開催され、保坂会長が出席し、通常総会ではICAのカテゴリーB会員として投票権を行使した。また、「日本アーカイブズ学会会員海外派遣に関する内規」に従い、2019年度に派遣助成を決定していた会員の筒井弥生氏が大会に参加した。

※筒井氏には、会誌40号に参加記が掲載された後、助成金を支払う予定である。

②国際アーカイブズ評議会東アジア地域支部 (EASTICA)

本会は、2019年度から理事を務めている。EASTICAの総会・セミナーが2023年1月28日から12月1日に中国、深センで開催されたが、役員は派遣しなかった。

(3) 国内関係機関との交流

①アーカイブズ関係機関協議会での意見交換

2024年2月26日に国立公文書館で開催された同協議会に、太田富康副会長、富善一敏副会長が出席し、学会活動の現状について報告し、意見交換を行った。

②放射線・放射能測定データアーカイブズワーキンググループでの意見交換

2023年12月27日(水)、日本学術会議総合工学委員会 原子力安全に関する分科会 原発事故による環境汚染調査に関する検討小委員会 東京電力福島第一原子力発電所事故に関連する放射線・放射能測定データアーカイブズワーキンググループの会合がオンラインで開催され、富善副会長が出席した。「福島第一原発事故に関わる環境モニタリングデータ・測定試料に関するアンケート調査」の協力学協会への回覧、調査結果の学術会議「記録」化、福島第一原発事故に関わる放射線測定データ情報検索RADARC311の運用状況、及びワーキンググループの今後のあり方等について意見交換を行った。

(4) 共催・後援

- ア. 第174回例会「カナダにおける電子記録情報管理の現状とレコードマネジャーの役割」(主催:記録管理学会)、オンライン開催、2023年6月10日(土)
- イ. 2023年度アート・ドキュメンテーション学会(JADS)年次大会(主催:アート・ドキュメンテーション学会)、国際教養大学およびオンラインのハイブリッド開催、2023年6月17日(土)・18日(日)
- ウ. 第28回史料保存利用問題シンポジウム「コロナ感染症をめぐる記録と記憶―何を、誰が、どう残すか―」(主催:日本歴史学協会・日本学術会議史学委員会)、オンライン開催、2023年6月24日(土)
- エ. 第175回例会「一般企業での電子文書のライフサイクル管理の実状」(主催:記録管理学会)、オンライン開催、2023年9月9日(土)
- オ. 「令和5年度画像保存セミナー」(主催:日本写真学会)、東京都写真美術館ホール、2023年12月1日(金)
- カ. 人文科学とコンピュータシンポジウム(じんもんこん2023)「人文学のためのデータインフラストラクチャー構築に向けて」(主催:情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会)、オンライン開催、2023年12月9日(土)・10日(日)
- キ. 第176回例会「エストニアのデジタル社会推進の成功要因を考える」(主催:記録管理学会)、オンライン開催、2023年12月6日(土)
- ク. 「第9回公害資料館連携フォーラムin福島―災害を伝え、未来をつくる―」(主催:公害資料館ネットワーク)、福島大学、2023年12月16日(土)・17日(日)
- ケ. 「原子力総合シンポジウム2023」(主催:日本学術会議)、日本学術会議講堂およびオンラインのハイブリッド開催、2024年1月22日(月)

4. 登録アーキビスト

(1) 認定・更新

「日本アーカイブズ学会登録アーキビストに関する規程」に基づき、2023年10月1日（日）から31日（火）までの間、申請の受付を実施した。2024年1月8日（月・祝）に資格委員会を開催した。資料6のとおり、3名が学会登録アーキビストに認定され、10名の更新が認められた。

(2) 研修会

2023年度は、全国各地から参加を募れるよう、オンラインで実施した（2023年9月23日）。参加者は、12名であった。近年のデジタルアーカイブを取り巻く課題を踏まえ、矢野正隆氏（東京大学大学院経済学研究科助教）より「デジタルアーカイブをめぐる現状と課題」の講演をいただいたあと、参加者によるグループディスカッション、全体討論を行った。

5. SIG (Special Interest Group) の認定

(1) 2023年度総会

2022年度総会で趣旨が採択された「会員グループ活動の創設に関する提案」について、会員の自主的なグループを本学会がSIG (Special Interest Group) として認定し、その活動を支援するプログラムを開始することが2023年度総会で承認された。

(2) SIGに関する「要領」等の委員会での承認

2022年度委員会内に設置された「会員グループ活動検討ワーキンググループ (WG)」において、SIGに関する規定等を検討し、2023年5月20日開催の第213回委員会で「日本アーカイブズ学会認定 SIG に関する要領」「2023年度日本アーカイブズ学会認定 SIG 申請要項」及び「日本アーカイブズ学会認定 SIG に関する Q&A」を定め、6月1日から募集を開始することが承認された。

「日本アーカイブズ学会認定 SIG に関する要領」は以下のとおりである。

1 目的

この要領は、会則第22条の規定に基づき、会員の自主的なグループ活動を認定することにより、その活動を支援し、会の目的の達成に寄与する場を作ることを目的とする。

2 認定グループの名称

(1) この要領に基づいて認定する自主活動グループの名称は「日本アーカイブズ学会認定 SIG」とする。

なお、「SIG」は「Special Interest Group スペシャル・インタレスト・グループ」の略称である。

(2) 認定を受けたグループは、その活動にあたって「日本アーカイブズ学会認定 SIG」（以下「SIG」という。）の名称を使用することができる。

3 活動期間

活動期間は、原則として2年以内とし、更新することができる。

4 認定の要件

(1) アーカイブズ学上の課題に取り組むものであること。

(2) 3名以上の構成員から成り、その過半数が本学会の正会員であること。

5 認定の申請

(1) グループに幹事1名を置き（本学会の正会員に限る。）、申請は別に定める方法により、幹事が行うものとする。

(2) 申請の受付は毎年度1回以上行い、受付期間は、別に定める申請要項による。

6 審査及び認定

会則第15条に規定する委員会（以下「委員会」という。）は申請の内容に基づき認定の可否を審査する。審査の結果は会長より申請者に通知する。

7 活動の報告と公表

(1) 幹事は、活動期間中の定められた時期に年次活動報告書を委員会に提出するものとする。

(2) SIG の名称及び活動等は、総会資料、ウェブサイト、機関誌等で公表するものとする。

8 学会からの支援

(1) 本学会は、SIG に対して活動の広報等の支援を行う。

(2) 活動費の助成など、新たな予算を伴う支援は行わない。

9 委員会への届出

(1) 幹事、連絡先の変更が生じた場合は、その旨を速やかに委員会に届け出るものとする。

(2) 公開研究会の開催など、SIG の名称を用いて対外的な活動を行う場合は、事前に委員会に届け出るものとする。

10 認定の更新

(1) 認定の更新を希望するグループは、別に定める方法で更新を申請する。

(2) 委員会は申請の内容をもとに更新の可否を審査する。審査の結果は会長より申請者に通知する。

11 認定の取消し

本会の目的に反する行為のあった SIG、または本会の名誉を著しく傷つけた SIG に対しては、委員会の議決によって会長は、認定を取り消すことができる。

12 委任

この要領に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

付記

1 この要領は、2023年度総会を経て、2023年5月20日開催の第213回委員会において定められた。

2 委員会は、この要領の制定後2年度を目途として、実施の状況を勘案しつつ検討を加え、必要に応じて、要領の改正や総会への提案などの措置を講ずるものとする。

(3) 2023年度第1回申請受付と認定

2023年度第1回申請受付を2023年6月1日から同月30日まで行い、2件の申請があった。7月5日開催のWGでの検討を経て、7月19日開催の第215回委員会にて審査を行い、同日付けで次の2件のSIGを認定した。

- ・公害アーカイブズに関する研究SIG（幹事：清水善仁）
 - ・教材等研究SIG（幹事：毛塚万里） ※申請順
- 認定期間 2023年8月1日から2025年3月31日まで

(4) 2023年度第2回申請受付と認定

2023年度第2回申請受付を2024年1月1日から同月31日まで行い、1件の申請があった。2月14日開催のSIG担当会合での検討を経て、2月27日開催の第221回委員会にて審査を行い、同日付けで次のSIGを認定した。

- ・海外アーカイブズ・アーキビスト協会調査研究SIG（幹事・松崎裕子）
- 認定期間 2024年4月1日から2026年3月31日まで

(5) ワーキンググループ（WG）、SIG担当会合の開催状況

WGは2023年7月19日開催の第215回委員会において、「SIG担当」に名称を変更し

て活動を行った。

<構成委員>

太田 富康、加藤 諭、曾根原 理、平野 泉、松崎 裕子（座長）、宮間 純一

<開催日時および方式>

2023年5月9日（火）19時30分より、7月5日（水）19時より、
2024年2月14日（水）19時30分より
いずれもオンラインにて開催

(6) 各SIGの活動

2023年度第1回認定SIGの活動は以下のとおり。

①公害アーカイブズに関する研究SIG

2023年度は、2023年12月15～16日に福島大学で開催された「第9回公害資料館連携フォーラムin福島」で資料分科会（テーマ：災いの資料を未来づくりに一福島と尼崎での取り組み）を企画・実施した。

基調報告として、瀬戸真之氏（東日本大震災・原子力災害伝承館）および河野未央氏・松本望氏（尼崎市立歴史博物館“あまがさきアーカイブズ”）にそれぞれの館での資料の保存や活用等に関する取り組みをお話いただき、その後、分科会参加者全員によるグループディスカッションをおこなった。

グループディスカッションでは「公害や災害の原因や背景、起こったことや人々の苦難が〈伝わる〉資料とは何か？」「〈伝わる〉ための伝え方とは？」をテーマとした。

このフォーラム分科会の企画・実施にあたって、SIGメンバーが集まって議論をかさねた。

②教材等研究SIG

2023年度は「ライフサイクル図」のパブリックドメイン版の整備について議論を重ね、（1）一般職員（庁内研修）（2）市民（3）小中学生 の対象別に研修・教材用の資料化に今後取り組むことを確認した。開催日・話題提供者（敬称略）・内容は次のとおり。

準備会：2023年6月21日（水）・7月28日（土）

第1回：2023年8月26日（土）宮平さやか「豊島区の学校公文書管理研修について」

第2回：2023年9月24日（日）毛塚万里「宮平報告を聞いてーコメントと今どきの卒業アルバムについて」

第3回：2023年10月25日（水）定兼 学「ライフサイクル図を考える」

第4回：2023年11月20日（月）松岡資明「市民むけ私家版パンフレットについて」

第5回：2023年12月13日（水）毛塚万里「定兼さん報告へのコメント」という形を借りてー今後の取り組みなど」

第6回：2024年1月24日（水）宮平さやか・宮田克成「デジタル公文書の管理・移管に関する課題について」[定兼さん報告関連]

第7回：2024年2月28日（水）小谷允志「国立公文書館見学のためのブリーフィング（説明資料）について」[文書情報管理の基本習得者を対象とする事例]

第8回：2024年3月31日（日）毛塚万里「宮平さん・宮田さん報告へのコメント」

6. 事務業務

(1) 事務内容

- ア. 会員関係事務（入会受付、会員名簿管理、会員への連絡など）
- イ. 会計事務（会費徴収、活動経費の支払いなど）
- ウ. 総会・大会・委員会準備、実施、議事録作成
- エ. 記録・アーカイブズの管理

- オ. 広報および普及活動
- カ. 他団体との交流関係事務

(2) ウェブサイト関係

- ア. ウェブサイトでの情報発信の充実と情報更新の迅速化に引き続き注力した。
- イ. ウェブサイトの更新
ニュースの更新は23件であった。
- ウ. ウェブサイトのアクセス履歴（2023年4月1日～2024年2月29日）
ヒット総数84,538件
- エ. ウェブサイトの充実
当会ホームページのJSASブログにおける企画The Archivistに、太田富康氏、大月英雄氏のインタビュー記事を掲載した。

(3) 広報活動

- ①電子メールによる「日本アーカイブズ学会からのお知らせ」の配信
会告、主催・後援等の行事情報、関係諸団体・会員提供の各種情報、事務連絡等につき、29回の配信を行った。
- ②公式SNSアカウントの運用
広報活動の一環として、FacebookおよびX（旧Twitter）で本会事務局の公式アカウントの運用を行った。

(4) 学会記録保管の外部委託

2021年度より株式会社NXワンビシアーカイブズと契約を結び、学会記録の保管を委託している。学会記録の整理等に向けた検討を進めている。

(5) 学会推進基金の活用に関する検討

学会推進基金の活用について検討を行った。

(6) 会員名簿の作成

2022年度総会で正会員から会員名簿の作成についての要望があった。要望を受けて委員会で検討を重ね、2023年度総会に会員名簿の作成を提案し、承認された。これを受けて11月15日から12月20日までの間、名簿への搭載を希望する会員の申請を受け付け、会員名簿を作成し、2024年2月16日にメールで配付した。

(7) 学会20周年記念事業

本会が、2024年4月で20周年を迎えることをうけて記念事業を進めるべくワーキンググループを組織した。メンバーは、富善副会長、柏原委員、下重委員、宮間委員。

7. 役員（2024年3月31日現在）

2022年度総会において選出された次の28名の役員により、本会の事業を計画・実施した。

会長	保坂 裕興	(学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻)
副会長	太田 富康	(元埼玉県立文書館)
	富善 一敏	(東京大学経済学部資料室)
委員	元 ナミ	(東京大学文書館)
	太田 尚宏	(人間文化研究機構国文学研究資料館)

	柏原 洋太	
	加藤 諭	(東北大学史料館)
	北浦 康孝	(広島大学文書館)
	工藤 航平	(国立歴史民俗博物館)
	篠崎 佑太	(宮内庁宮内公文書館)
	下重 直樹	(学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻)
	杉浦 秀典	((公財) 賀川事業団雲柱社賀川豊彦記念松沢資料館)
	鈴木 直樹	(一橋大学社会学研究科)
	曾根原 理	(東北大学史料館)
	高木 まどか	(成城大学)
	高科 真紀	(国立歴史民俗博物館)
	谷合 佳代子	(エル・ライブラリー (大阪産業労働資料館))
	手塚 雄太	(國學院大學文学部史学科)
	西山 直志	(国立公文書館)
	野邑 理栄子	(神戸大学大学文書史料室)
	平野 泉	(立教大学共生社会研究センター)
	福島 幸宏	(慶應義塾大学文学部)
	松崎 裕子	(株式会社アーカイブズ工房)
	三野 行徳	(昭和女子大学人間文化学部歴史文化学科)
	宮間 純一	(中央大学文学部)
	湯上 良	(昭和女子大学人間文化学部歴史文化学科)
監 事	高木 秀彰	(寒川文書館)
	渡辺 浩一	(人間文化研究機構国文学研究資料館)

8. 会員数 (2024年3月1日現在)

正会員	464名	(前年度比 16名増)
うち学生	43名	(前年度比 4名減)
賛助会員	19団体	(前年度比 増減なし)

資料 2

2023年度 決算 (案)

[2023年3月1日～2024年2月29日]

1 収入の部

	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (B-A)	備考
会費	2,400,000	2,361,000	△39,000	一般会員 5,000円×405名 学生会員 3,000円×42名 賛助会員 10,000円×21名
大会参加費	100,000	108,000	8,000	会員 500円×134名 非会員 1,000円×41名
会誌売上	100,000	130,000	30,000	
審査・登録料	155,000	82,000	△73,000	審査料(新規) 8,000円×4名 審査料(更新) 5,000円×10名 登録料 2,000円×0名
その他収入	165,000	175,016	10,016	会誌広告掲載料、利子等
前年度繰越金	2,187,907	2,187,907	0	
計	5,107,907	5,043,923	△63,984	

2 支出の部

	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (B-A)	備考
人件費(賃金)	200,000	134,568	△65,432	事務局アルバイト等賃金
謝礼金	100,000	90,000	△10,000	大会講師・登録アーキビスト審査等謝金
会議費	160,000	63,100	△96,900	総会・大会会議費、Zoom代
印刷製本費	1,500,000	1,021,293	△478,707	会誌38号・39号、大会資料等
委託料	750,000	392,020	△357,980	会誌発送、学会記録管理、Webサイト管理等
事務費	400,000	141,777	△258,223	郵送・通信料、振込手数料、事務用品等
旅費・交通費	300,000	48,000	△252,000	
会費(関連機関協力費)	70,000	68,257	△1,743	ICA会費、EASTICA会費
事務所賃料	410,000	403,920	△6,080	国際善隣会館賃借料
研究助成	800,000	600,000	△200,000	
積立金(学会推進基金)	0	0	0	
予備費	417,907	0	△417,907	
次年度繰越金	0	2,080,988	2,080,988	
計	5,107,907	5,043,923	△63,984	

繰越金を除いた単年度収支では2,856,016円—2,962,935円=106,919円の赤字決算となりました。2022年度繰越金2,187,907円—2023年度赤字額106,919円=2,080,988円を2024年度会計に繰り越します。

上記の通り報告します。

2024年3月6日

日本アーカイブズ学会会長 保坂 裕興

2023年度 学会推進基金特別会計決算（案）

[2023年3月1日～2024年2月29日]

1 収入の部

	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (B-A)	備考
繰入金(一般会計より)	0	0	0	
その他収入	78	78	0	預金利子
前年度繰越金	4,503,150	4,503,150	0	
計	4,503,228	4,503,228	0	

2 支出の部

	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (B-A)	備考
積立金	4,503,228	4,503,228	0	
計	4,503,228	4,503,228	0	

積立金4,503,228円を2024年度会計に繰り越します。

上記の通り報告します。

2024年3月6日

日本アーカイブズ学会会長 保坂 裕興

2023年度 会計監査報告

監 査 報 告 書

日本アーカイブズ学会会則第10条第4項の規定に基づき、会計帳簿など会計書類を審査した結果、2023年度の会計は適正に執行されていることを認めます。

2024年3月6日

監事 高木 秀彰 

監事 渡辺 浩一 

2024年度事業計画（案）

1. 大会、委員会、および研究集会等の開催

(1) 2024年度大会の開催と2025年度大会の準備

2024年度大会を開催する（2024年4月20日・21日）。

2025年度大会を準備する（2025年春季開催を予定）。

(2) 研究集会の企画・開催

研究集会を企画・開催する。開催方法については、オンライン・対面または双方の併用など、状況と開催目的に応じて決定するものとし、首都圏以外での開催についても検討する。さらに、2025年度大会企画研究会を企画・準備する。これらの研究集会は、研究報告、シンポジウム、および見学・研修等を行うもので、本会研究活動の中心的な場である。企画にあたっては次の諸点に留意する。

ア. 会員が相互に課題を出し合い、学会活動の方向を模索・形成していくこと。

イ. 正会員と賛助会員の積極的な意見交換を通して、共通の課題を発見し、それに取り組むこと。

ウ. 大学等教育研究機関とも連携し、アーカイブズ学の教育・普及、およびアーキビスト養成を進展・充実させること。

エ. 隣接分野・新興分野、あるいは関連諸機関・団体と交流し、共通の課題を発見し、それに取り組むこと。

オ. 海外の研究者・関連団体と交流し、研究動向を把握しながら、国際的視野のもとに研究活動を企画・推進すること。

(3) 委員会の開催

月に1回程度の頻度で委員会を開催する。

2. 機関誌の発行

(1) 機関誌『アーカイブズ学研究』の発行及び電子化

第40号を2024年6月に、第41号を2024年12月に発行する。刊行から1年が経過する第38号、第39号については、J-STAGEにおいて公開する。

(2) 編集企画、投稿論文の審査事務、編集事務

アーカイブズ学研究の発展のために、機関誌には、大会企画研究会や学界の動向等の成果を広く反映させるとともに、より良質な論文掲載に向けて努力する。

3. 学会普及および対外交流活動

(1) 出版助成

会員によるアーカイブズ学に関する学術図書の出版を助成する。

(2) 海外関係機関との交流

ICA・EASTICAをはじめとするアーカイブズ関係の海外関係機関との交流を進める。ICAの年次会合やEASTICA理事会をはじめアーカイブズ関係の国際会議への派遣を検討する。

(3) 国内関係機関との交流

アーカイブズ関係機関協議会など関係各団体との連絡を密にし、積極的な共催・後援活動を進めるなかで、協力関係の拡充を図る。

(4) 出版物の検討

アーカイブズ学の普及・教育のための出版物の刊行に向けた検討を進める。

(5) 学会推進基金の活用に関する検討

学会推進基金の活用方法について検討を進める。

4. 学会20周年記念事業

学会20周年記念事業を計画・実施する。

5. 規程類の整備

会運営の効率化、事務遂行の安定化に向けて規程類を整備する。

6. 登録アーキビスト

(1) 登録アーキビストの認定

ウェブサイト等により積極的な広報に努める。2024年度の申請は、2024年10月1日(火)から10月31日(木)までを申請受付期間とし、2025年2月末までに審査を行い、3月末までに申請者への通知および登録証の交付を行う。

(2) 登録アーキビストの更新

2019年度に認定した登録アーキビストの有効期間満了に伴い、2024年10月1日(火)から10月31日(木)までを更新申請受付期間とし、2025年2月末までに審査を行い、3月末までに申請者への通知および登録証の更新と交付を行う。

(3) 研修会

1回程度実施する

7. SIG (Special Interest Group) の認定と活動の支援

(1) SIGの認定

ウェブサイト等により積極的な広報に努める。2024年度の認定は2回を予定している。

(2) 活動の支援

2024年度大会期間中、SIGに関心を持つ人の交流のスペースを設置するほか、ウェブサイトや電子メールなどでの広報に協力する。

8. 事務業務

(1) 学会運営体制の整備

学会法人化を視野に入れ、事務体制の充実と財務基盤の強化を図る。

(2) ウェブサイト・SNSの維持管理

研究集会、後援行事等の開催案内や機関誌の発行など、学会の活動とその成果に関する情報を速やかに発信していく。より分かりやすく利用しやすい情報発信を目指して、定期的な見

直しを行う。ウェブサイト・SNS（Facebook、X(旧Twitter)）による情報提供が安全かつ確実にできるよう、セキュリティ対策やコンテンツのバックアップに努める。

(3) 学会記録の管理に関する検討

2004年の本会設立以来蓄積されてきた学会記録の管理・評価選別・公開等についての方針を定めるべく、調査・検討を進める。

資料 5

2024年度 予算 (案)

[2024年3月1日～2025年2月28日]

1 収入の部

	前年度予算 (A)	本年度予算 (B)	比較増減 (B-A)	備考
会費	2,400,000	2,350,000	△50,000	一般会員 5,000円×400名 学生会員 3,000円×50名 賛助会員 10,000円×20口
大会参加費	100,000	100,000	0	
会誌売上	100,000	100,000	0	
審査・登録料	155,000	143,000	△12,000	審査料(新規) 8,000円×4名 審査料(更新) 5,000円×11名 登録料 2,000円×28名
その他収入	165,000	150,000	△15,000	会誌40号・41号広告料、預金利子等
前年度繰越金	2,187,907	2,080,988	△106,919	
計	5,107,907	4,923,988	△183,919	

2 支出の部

	前年度予算 (A)	本年度予算 (B)	比較増減 (B-A)	備考
人件費(賃金)	200,000	150,000	△50,000	事務局アルバイト等賃金
謝礼金	100,000	100,000	0	大会講師・登録アーキビスト審査等謝金
会議費	160,000	100,000	△60,000	総会・大会会議費、Zoom代
印刷製本費	1,500,000	1,400,000	△100,000	会誌40号・41号、大会資料等
委託料	750,000	800,000	50,000	会誌発送、学会記録管理、Webサイト管理等
事務費	400,000	450,000	50,000	郵送・通信料、振込手数料、事務用品等
旅費・交通費	300,000	300,000	0	講演者、研究集会スタッフ等
会費(関連機関協力費)	70,000	80,000	10,000	ICA会費・EASTICA会費
事務所賃料	410,000	410,000	0	国際善隣会館賃借料
研究助成	800,000	100,000	△700,000	ICA大会参加助成
積立金(学会推進基金)	0	0	0	
予備費	417,907	1,033,988	616,081	
計	5,107,907	4,923,988	△183,919	

2024年度 学会推進基金特別会計予算（案）

[2024年3月1日～2025年2月28日]

1 収入の部

	前年度予算 (A)	本年度予算 (B)	比較増減 (B-A)	備考
繰入金(一般会計より)	0	0	0	
その他収入	78	78	0	預金利子
前年度繰越金	4,503,150	4,503,228	78	
計	4,503,228	4,503,306	78	

2 支出の部

	前年度予算 (A)	本年度予算 (B)	比較増減 (B-A)	備考
積立金	4,503,228	4,503,306	78	
計	4,503,228	4,503,306	78	

資料6

役員改選

2024～2025年度 日本アーカイブズ学会役員（案）

会長（定員1名）	保坂 裕興*
副会長（定員2名）	太田 富康* 白井 哲哉
委員（定員30名以内）	赤司 友徳 伊藤 匠 及川 敦美 大木 悠祐 大月 英雄 岡安 儀之 小幡 圭祐 加藤絵里子 加藤 諭* 北浦 康孝* 工藤 航平* 久保庭 萌 河野 未央 篠崎 佑太* 下重 直樹* 菅原 一 杉浦 秀典* 鈴木 直樹* 高木まどか* 高見 純 武田 真幸 谷合佳代子* 手塚 雄太* 西山 直志* 蓮沼 素子 福島 幸宏* 松崎 裕子* 三野 行徳* 宮間 純一* Baryshev Eduard
監事（定員2名）	高木 秀彰* 渡辺 浩一*

（*は再任）

（参考）

以下は、2023年1月1日付会告による立候補者である。

1. 会長候補者（定員1名）

氏名：保坂 裕興

居住地：東京都

略歴：学習院大学史料館、駿河台大学文化情報学部、学習院大学大学院アーカイブズ学専攻

立候補の理由：会員諸氏および本会役員と協力してアーカイブズ学の発展に寄与するとともに、率先して本会の会務総括をおこなう。

推薦者名：太田富康・高科真紀・宮間純一

2. 副会長候補者（定員2名）

(1) 氏名：太田 富康

居住地：埼玉県

略歴：埼玉県立文書館、県民部県史編さん室、教育局文化財保護課、埼玉県立博物館、教育局生涯学習文化財課

立候補の理由：微力ですが、学会発展のお役に立てればと思います。

推薦者名：高科真紀・保坂裕興・宮間純一

(2) 氏名：白井 哲哉

居住地：埼玉県

略歴：埼玉県立文書館、筑波大学図書館情報メディア系

立候補の理由：微力ながら貴会の発展に寄与したいと考えました。

推薦者名：太田富康・高科真紀・保坂裕興

3. 委員候補者（定員30名以内）

(1) 氏名：赤司 友徳

居住地：福岡県

略 歴：九州大学大学文書館

立候補の理由：九州大学大学文書館に勤務しており、日々の業務や教育に携わる中で、アーカイブズ分野への貢献を考えるようになりました。貴会において、私の卑小な経験と知識を活かし、貴会の発展をお手伝いすることができれば光栄です。

推薦者名：下重直樹・杉浦秀典・高木まどか

(2) 氏 名：伊藤 匠

居住地：宮城県

略 歴：石巻市博物館

立候補の理由：大学や大学院にて日本史学のほかアーカイブズ学を学び、外務省外交史料館などにて公文書を扱った経験を元手に、東京から遠く離れた地に起居する身ではありますが、日本アーカイブズ学会の活動に貢献したいと考え、このたび委員に立候補します。

推薦者名：谷合佳代子・松崎裕子・三野行徳

(3) 氏 名：及川 敦美

居住地：東京都

略 歴：株式会社NX ワンビシアーカイブズ、三菱総研DCS株式会社

立候補の理由：アーカイブズ学の知識及び民間企業での実務経験を活かし、微力ながらもアーカイブズ分野の発展に貢献したいと考えたため。

推薦者名：谷合佳代子・松崎裕子・三野行徳

(4) 氏 名：大木 悠佑

居住地：東京都

略 歴：独立行政法人国立公文書館

立候補の理由：学会活動を通じて、日本のアーカイブズ学界の発展に貢献したいため。

推薦者名：太田尚宏・柏原洋太・福島幸宏

(5) 氏 名：大月 英雄

居住地：滋賀県

略 歴：滋賀県立公文書館

立候補の理由：10年以上にわたる公文書館勤務経験を生かして、現場に役立つアーカイブズ学の発展に貢献したいと考えたから。

推薦者名：下重直樹・高木まどか・谷合佳代子

(6) 氏 名：岡安 儀之

居住地：宮城県

略 歴：東北大学史料館

立候補の理由：これまでの経験を活かして、アーカイブズ学の発展に貢献したいと考えたため。

推薦者名：下重直樹・杉浦秀典・高木まどか

(7) 氏 名：小幡 圭祐

居住地：山形県

略 歴：山形大学人文社会科学部、山形大学附属博物館

立候補の理由：立候補者は歴史学（日本近現代史）を専攻し、大学アーカイブズ（東北大学史料館）にて勤務歴を有するとともに、山形大学にて教鞭をとりつつデジタルアーカイブ構築を担っている。これまでの経験を生かし斯学の発展に寄与することが理由である。

推薦者名：下重直樹・高木まどか・曾根原理

- (8) 氏名：加藤 絵里子
居住地：東京都
略歴：東京大学史料編纂所、国立国会図書館政治史料課
立候補の理由：学会を支える委員会活動に貢献するため。
推薦者名：高木まどか・谷合佳代子・三野行徳
- (9) 氏名：加藤 諭
居住地：宮城県
略歴：東北大学史料館公文書室、東京大学文書館、東北大学学術資源研究公開センター史料館
立候補の理由：2020年代は多様なプラットフォームによるデジタルアーカイブの進展、公的なアーキビスト認証制度運用、国の公文書管理の電子化促進等、様々な動きが想定される。その中で教育研究・実務に携わってきた知見を本会に還元したく立候補いたしました。
推薦者名：太田富康・曾根原理・宮間純一
- (10) 氏名：北浦 康孝
居住地：広島県
略歴：横浜開港資料館、東京都公文書館、板橋区公文書館、早稲田大学大学史資料センター、広島大学文書館
立候補の理由：いくつかの地方自治体や私立・国立大学と、さまざまな機関で培った経験とそこで得た知見を活かして、アーカイブズ学の発展とアーカイブズの普及に尽力したい。
推薦者名：西山直志・野邑理栄子・湯上良
- (11) 氏名：工藤 航平
居住地：千葉県
略歴：埼玉県立文書館、人間文化研究機構国文学研究資料館、東京都公文書館、国立歴史民俗博物館
立候補の理由：アーカイブズ学および日本アーカイブズ学会のさらなる発展・普及に貢献するため、学会運営に積極的に参画したい。
推薦者名：加藤諭・富善一敏・平野泉
- (12) 氏名：久保庭 萌
居住地：大阪府
略歴：尼崎市立地域研究史料館、大磯町郷土資料館、尼崎市立歴史博物館地域研究史料室“あまがさきアーカイブズ”
立候補の理由：長年実務に携わっている経験を活かし、実務家としての視点から、学会、ひいてはアーカイブズ学の発展に寄与したいと考えている。
推薦者名：太田尚宏・柏原洋太・福島幸宏
- (13) 氏名：河野 未央
居住地：兵庫県
略歴：尼崎市立地域研究史料館、近大姫路大学教育学部こども未来学科、尼崎市立歴史博物館
立候補の理由：2008～2011年、2014年から現在にいたるまで、自治体職員としてアーカイブズ機関に勤務した経験を活かし、アーカイブズの学術分野へ寄与することができればと考えたためです。学会としてのさらなる充実、アーカイブズ学の進展に微力ながら貢献できるよう、尽力いたします。
推薦者名：工藤航平・下重直樹・杉浦秀典

- (14)氏 名：篠崎 佑太
居住地：東京都
略 歴：宮内庁書陵部
立候補の理由：アーカイブズ学の発展に微力ながら貢献したい。
推薦者名：西山直志・野邑理栄子・湯上良
- (15)氏 名：下重 直樹
居住地：東京都
略 歴：独立行政法人国立公文書館、内閣府大臣官房公文書管理課、学習院大学文学部
立候補の理由：日本における記録及びアーカイブズの保存とアクセスを学術研究及び教育の両面からさらに充実させる観点から、本学会の持続的発展を期するため。
推薦者名：西山直志・野邑理栄子・湯上良
- (16)氏 名：菅原 一
居住地：東京都
略 歴：人間文化研究機構国文学研究資料館
立候補の理由：日本のアーカイブズ学の発展に少しでも寄与したいと考えたため。
推薦者名：加藤絵里子・鈴木直樹・宮間純一
- (17)氏 名：杉浦 秀典
居住地：東京都
略 歴：(公財)賀川事業団雲柱社 賀川豊彦記念松沢資料館
立候補の理由：アーカイブズ学のさらなる深化の為に、また各種アーカイブズが広く社会に浸透して、社会機関としてのさらなる発展となるために、微力ながらも日本アーカイブズ学会委員として貢献したいと願って立候補致します。
推薦者名：西山直志・野邑理栄子・湯上良
- (18)氏 名：鈴木 直樹
居住地：東京都
略 歴：一橋大学大学院社会学研究科
立候補の理由：私は、これまでに関東近世史研究会・歴史学研究会・東京歴史科学研究会で委員を務め、学会運営に携わってきました。これまでの経験を活かし、アーカイブズ学のさらなる発展に寄与できればと考え立候補いたしました。
推薦者名：加藤諭・平野泉・富善一敏
- (19)氏 名：高木 まどか
居住地：東京都
略 歴：人間文化研究機構国文学研究資料館、東京都公文書館
立候補の理由：アーカイブズ学会での活動をとおり、アーカイブズとなる記録の生成、保存及び活用についての理論と技法について今まで学んできたことを活かしたく、今回委員に立候補させていただきました。
推薦者名：西山直志・野邑理栄子・湯上良
- (20)氏 名：高見 純
居住地：東京都
略 歴：人間文化研究機構国文学研究資料館、文部科学省初等中等教育局、拓殖大学政経学部
立候補の理由：アーカイブズ学会に貢献したいと思ったため。
推薦者名：西山直志・野邑理栄子・湯上良

- (21)氏 名：武田 真幸
居住地：東京都
略 歴：千葉県文書館県史・古文書課、立川市産業文化スポーツ部市史編さん室
立候補の理由：大学から日本近世村落史を学び、特に大学院修了後は公文書館や市史編さんにて古文書（民間所在史料）の目録作成に主体的に関わる立場となり、アーカイブズへの関心を強くしました。大学院在籍時代より携わっている学会運営の経験を貴会でも活かしつつ、アーカイブズについて学びたいと思っております。
推薦者名：太田尚宏・柏原洋太・福島幸宏
- (22)氏 名：谷合 佳代子
居住地：大阪府
略 歴：大阪社会運動協会、大阪産業労働資料館（エル・ライブラリー）
立候補の理由：後進の人材育成のためにも、実務家として現場にフィードバックできる研究を深めていき、アーカイブズ界全体の底上げを実現したく、委員に立候補します。微力ながらお役に立てることを願っています。
推薦者名：工藤航平・北浦康孝・鈴木直樹
- (23)氏 名：手塚 雄太
居住地：千葉県
略 歴：鎌ヶ谷市郷土資料館、國學院大學文学部
立候補の理由：本会の設立趣旨・目的にいくばくか寄与できればと思うため。
推薦者名：工藤航平・北浦康孝・鈴木直樹
- (24)氏 名：西山 直志
居住地：千葉県
略 歴：独立行政法人国立公文書館
立候補の理由：アーカイブズ学と日本アーカイブズ学会の発展に、微力ながら貢献したいため。
推薦者名：加藤諭・富善一敏・平野泉
- (25)氏 名：蓮沼 素子
居住地：秋田県
略 歴：宮城県公文書館、江東区総務部総務課、大仙市役所総務部総務課
立候補の理由：アーカイブズ学会の委員として、これまでのアーキビストとしての業務経験や研究実績を学会運営に役立てることで、日本におけるアーカイブズ学の発展に寄与したいから。
推薦者名：加藤絵里子・三野行徳・松崎裕子
- (26)氏 名：福島 幸宏
居住地：東京都
略 歴：京都府立総合資料館、京都府立図書館、東京大学大学院情報学環、慶應義塾大学文学部
立候補の理由：地方自治体での重要文化財指定の行政文書の管理運用経験と、図書館での企画調整の経験、さらにデジタルアーカイブに関する知見を活かして、日本アーカイブズ学会に貢献したいため。
推薦者名：加藤諭・平野泉・富善一敏
- (27)氏 名：松崎 裕子
居住地：東京都
略 歴：財団法人渋沢栄一記念財団（業務委託）、株式会社アーカイブズ工房

立候補の理由：会員の自主的なグループ活動の促進・支援のため。

推薦者名：工藤航平・杉浦秀典・鈴木直樹

(28)氏 名：三野 行徳

居住地：埼玉県

略 歴：小平市、人間文化研究機構国文学研究資料館、国立歴史民俗博物館

立候補の理由：これまで日本近世の記録史料管理史の研究を進め、またアーカイブズの整理や資源化に従事し、今後、大学においてアーカイブズ・アーキビスト教育に従事する予定である。これまでの経験をもとに貴会に貢献したいと考え、委員に立候補しました。

推薦者名：工藤航平・北浦康孝・鈴木直樹

(29)氏 名：宮間 純一

居住地：東京都

略 歴：千葉県文書館、宮内庁書陵部宮内公文書館、人間文化研究機構国文学研究資料館、中央大学文学部

立候補の理由：アーカイブズ学および学会の発展に貢献したいと考え、立候補しました。

推薦者名：加藤諭・富善一敏・平野泉

(30)氏 名：Baryshev Eduard

居住地：東京都

略 歴：島根県立大学北東アジア地域研究センター、筑波大学図書館情報メディア系

立候補の理由：長年にわたり、歴史的な研究の一環でアーカイブズ調査に専念しており、2014年以降、筑波大学図書館情報メディア系の教員としてアーカイブズ関連の教育・研究を行った。これを通して得た知見等を活用して、日本アーカイブズ学会に貢献できれば幸いです。

推薦者名：太田尚宏・柏原洋太・福島幸宏

4. 監事候補者（定員2名）

(1) 氏 名：高木 秀彰

居住地：神奈川県

略 歴：寒川文書館

立候補の理由：全史料協の会務運営の経験を、日本アーカイブズ学会の運営に生かすことで、アーカイブズ学の発展に寄与したい。

推薦者名：太田富康・富善一敏・保坂裕興

(2) 氏 名：渡辺 浩一

居住地：東京都

略 歴：東北大学文学部、国文学研究資料館

立候補の理由：アーカイブズ学の進展に資するため。

推薦者名：太田尚宏・柏原洋太・宮間純一

資料7

2023年度認定 登録アーキビスト

<u>登録番号</u>	<u>氏名</u>	<u>居住地</u>	<u>有効年度</u>
【新規登録者】			
JSAS2023001	浅井 良亮	東京都	2024-2028
JSAS2023002	長嶋 健太郎	東京都	2024-2028
JSAS2023003	山口 まどか	神奈川県	2024-2028
【更新登録者】			
JSAS2013003	荒木 清二	広島県	2024-2028
JSAS2013004	大木 悠佑	東京都	2024-2028
JSAS2013005	重久 幸子	福岡県	2024-2028
JSAS2013006	富田 三紗子	神奈川県	2024-2028
JSAS2013009	永井 (松崎) 裕子	東京都	2024-2028
JSAS2018001	川田 恭子	東京都	2024-2028
JSAS2018002	白田 拓郎	東京都	2024-2028
JSAS2018003	田中 智子	埼玉県	2024-2028
JSAS2018004	谷口 英理	東京都	2024-2028
JSAS2018006	柳沢 芙美子	福井県	2024-2028

参考資料

会 則

目 次

- 前 文
- 第1章 総則
- 第2章 目的および事業
- 第3章 会員
- 第4章 役員及び事務局
- 第5章 会議
- 第6章 会計
- 第7章 記録の管理、公開及び保存
- 第8章 会則の変更及び本会の解散
- 第9章 関連諸規程
- 附 則

【前 文】

私たちは、日本のみならず世界に遺されたアーカイブズ、そして将来のアーカイブズとなる記録の生成、保存及び活用についての理論と技法を研究し、実践するため、この学会を創設することとした。

アーカイブズは、団体、家及び個人が作成し、収受し、保存されてきた記録からなり、手書きや印刷された紙媒体のもの、電磁的記録のもの、そしてオーラルヒストリーなどからなっている。

このアーカイブズに関する科学研究は、(1)アーカイブズの管理に関する研究、(2)アーカイブズの成立・構造・伝来などに関する研究、(3)アーカイブズの教育・普及に関する研究などから構成されており、歴史学、社会学、情報学など既存の様々な学問分野の学理と連携しつつ、独自の領域をもつものである。この科学研究は、アーカイブズの保存及び関連する諸課題の解決に資するという役割を担うものでもある。

また、この科学研究と同時に、アーカイブズの保存及び関連する諸課題に対する実践を、このアーカイブズの科学研究に関わるものは求められている。

アーカイブズに関する科学研究と実践を担うものとしてアーカイブズ学を構築し、アーカイブズの適切な生成、保存、活用による平和で豊かな民主社会の実現に資するため、この会則を制定する。

第1章 総 則

(名称)

第1条 本会の名称は、日本アーカイブズ学会（英文名 The Japan Society for Archival Science 略称 JSAS）とする。

第2章 目的及び事業

(目的)

第2条 本会は、アーカイブズに関する調査・研究を行い、わが国におけるアーカイブズ学の進展に寄与するとともに、アーカイブズ制度の発展に貢献することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 研究集会及び総会の開催
- (2) 機関誌及びアーカイブズ関係文献の刊行
- (3) ウェブサイトの運営
- (4) 国内外の関係団体・機関との交流
- (5) その他必要と認める事業

第3章 会 員

(会員)

第4条 本会の会員の種類は、正会員及び賛助会員とする。

- 2 正会員は、本会の目的に賛同する個人とする。
- 3 賛助会員は、本会の目的に賛同し、その事業を援助する団体とする。

(入退会)

第5条 本会に入会しようとするものは、入会申込書に所定事項を記入して申し込み、会費を納めなければならない。

- 2 本会の退会は、退会の申し出による。ただし、正当な理由なしに会費を、通知された時期までに2回滞納した場合は退会したものとみなす。
- 3 本会の目的に反する行為のあった会員、または本会の名誉を著しく傷つけた会員に対しては、総会の議決によって会長は、退会を勧告することができる。

(会費)

第6条 会員は、当該年度の年会費を、通知された時期に納入するものとする。

- 2 会費の額は、総会の議決をもってこれを定める。
- 3 納入した会費は、これを返還しない。

(会員の権利)

第7条 会員は、次の権利を有する。

- (1) 総会への出席
- (2) 本会機関誌及び連絡・通信物の受領
- (3) 本会主催事業への参加

(正会員の権利)

第8条 正会員は次の権利を有する。

- (1) 総会における議決
- (2) 本会機関誌等への投稿
- (3) 本会研究集会における研究発表

第4章 役員及び事務局

(役員)

第9条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 委員 30名以内
- (4) 監事 2名

(役員の仕事)

第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、会長の責務を代行する。
- 3 委員は、会務を執行する。
- 4 監事は、会計を監査する。

(役員を選出・任期)

第11条 役員は、総会で選出される。

- 2 役員の仕事は、1期2年とし、再任は妨げない。但し、同じ役職では3期6年を上限とする。
- 3 任期途中で役員に欠員ができ、会務の執行等に支障を生ずるおそれがあるときは、これを補充することができる。補充役員の仕事は、当該役員の仕事期間とする。

(事務局)

第12条 本会に事務局を置く。

- 2 事務局に専任の職員を置くことができる。

第5章 会議

(会議の種類)

第13条 会議は、総会及び委員会とする。

(総会)

第14条 総会は、本会最高の決定機関であって、この会則において別に規定するもののほか、次の事

項を議決する。

- (1) 事業計画及び収支予算に関する事項
- (2) 事業報告及び決算の承認に関する事項
- (3) 委員会において総会に付議する必要があると認めた事項
- (4) 総会出席正会員から提案され、議案として認められた事項

2 総会は、年1回会長が招集して開催する。この他、正会員の5分の1以上から書面で総会に付議すべき事項を示して総会開催請求があったとき、又は会長が必要と認めたとき、会長は臨時にこれを招集する。

3 前項の規定にかかわらず、会長が総会を招集する暇がないと認めるときは、会長はその決定すべき事項（第5条第3項に規定する退会の勧告、第6条第2項に規定する会費の額の決定、第11条第1項に規定する役員を選出、第20条に規定する会則の変更、及び第21条に規定する本会の解散を除く。）を委員会の承認を得て処分することができる。

4 前項の規定による処置については、会長は、次の総会においてこれを報告し、その承認を求めなければならない。

5 総会は、正会員の10分の1以上の出席をもって成立する。

6 総会の議決は、出席正会員の過半数の同意による。

7 総会の議長は、出席正会員のうちから選出する。

8 総会の会議録は、議長が署名し、速やかに公開する。

(委員会)

第15条 委員会は、会務の執行に関する事項を審議決定する。

2 委員会は、会長が副会長及び委員を招集して開催する。

第6章 会計

(会計)

第16条 本会の経費は、会費、寄付金、事業収入及びその他の収入による。

2 本会の会計年度は、3月1日に始まり、翌年2月末日に終わる。

3 収支決算は、毎会計年度終了後、監事の監査を経て、総会に報告しなければならない。

第7章 記録の管理、公開及び保存

(記録の管理)

第17条 会務の執行等にあたっては、適切な記録の管理を行わなければならない。

(記録の公開)

第18条 本会の記録は、原則として公開しなければならない。

(アーカイブズの保存及び公開)

第19条 本会の記録のうち、永続的保存価値を有すると認められるものは、アーカイブズとして保存し公開しなければならない。

第8章 会則の変更及び本会の解散

(会則の変更)

第20条 本会会則の変更は、総会の議決を得なければならない。

(本会の解散)

第21条 本会の解散は、総会において正会員の3分の2以上の同意を得なければならない。

第9章 関連諸規程

(関連諸規程)

第22条 会務執行等に必要なる諸規程は、別に定める。

附 則

(施行期日)

この会則は、2004年4月24日から施行する。

(施行期日)

この会則は、2008年4月19日から施行する。

(施行期日)

この会則は、2011年4月23日から施行する。

(施行期日)

この会則は、2013年4月20日から施行する。

(施行期日)

この会則は、2015年4月25日から施行する。

(施行期日)

この会則は、2016年4月23日から施行する。

(施行期日)

この会則は、2021年4月24日から施行する。

(事務局)

事務局は、下記のところに置く。

〒105-0004 東京都港区新橋1-5-5

国際善隣会館5階

総会運営規程

(目的)

第1条 この規程は、日本アーカイブズ学会会則第14条に定める事項のほか、同第22条の規定にもとづき、総会の運営に関し必要な事項を定める。

(司会者)

第2条 司会者は、会長が指名し議長決定までの責任を持つ。

2 司会者は、仮議長となって議長を選出する。

(議長)

第3条 議長は1名ないし2名とする。

2 議長は、総会の秩序を保持し議事を整理して会議の運営と進行に責任を持つ。

3 議長は、会則第14条第3項により定足数を確認の後、総会の成立を宣言する。ただし、出席者が定足数に満たないときは、休息又は散会あるいは延会を宣言する。

(書記)

第4条 議長は、議事を記録するため出席正会員のなかから書記2名を指名する。

(発言者)

第5条 会議で発言する場合は挙手し、議長の指名を受けなければならない。

2 議長より指名を受けたときは、発言に先立ち、氏名を明らかにしなければならない。

(議案の提出)

第6条 会則第14条第1項第4号により提案をする場合は、次の各号による。

(1) 提案要旨を総会の30日前までに会長に提出しなければならない。

(2) 前号に定める期限以降に、緊急の事情により提案の必要が生じた場合は、総会開始までにその事由と要旨を会長に申し出なければならない。

(採決)

第7条 議長は、採決を行うときは、その旨を宣言する。

2 採決は、次の方法の一つとし、議長はその方法を会議に諮って採決する。

(1) 拍手

(2) 挙手

(3) 無記名投票

3 採決の順序は、原則として議案に対する否決、修正、賛成の順序で行う。

4 採決を行った場合は、議長はその結果を宣言する。

(発言停止、退場)

第8条 議長は、この規程に違反し、注意に従わない者を発言の停止あるいは退場させることができる。

(議事録)

第9条 総会の議事録には、次の各号に掲げられた事項が記載されなければならない。

(1) 開催日時及び開催場所

(2) 出席正会員数

(3) 議長選任の経緯

(4) 開会宣言

(5) 報告事項の概要

(6) 審議事項の概要およびその審議結果

(7) 閉会宣言

(規程の変更)

第10条 この規程は、総会の承認を受けなければ変更することができない。

(その他)

第11条 この規程に定めるもののほか、総会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、2005年4月5日開催の第12回委員会の議決により暫定的に施行する。

2 この規程は、2005年4月23日から施行する。

役員選出規程

(目的)

第1条 この規程は、日本アーカイブズ学会会則第11条に定める事項のほか、同第22条の規定にもとづき、役員選出の方法に関し必要な事項を定める。

(立候補)

第2条 役員に立候補しようとする者は、委員会による役員の改選又は補充の告示にしたがい、立候補する役職名とともに、その旨を委員会に届け出るものとする。

2 届出には正会員3名以上の推薦を要する。

(役員候補の決定)

第3条 委員会は、次の方法により役員案を総会に提案する。

(1) 立候補者は全員を総会に提案する。

(2) 立候補者数が前条第1項により告示された定数に満たない場合には、必要に応じて、委員会が本人の同意を得て選出し総会に提案する。

(総会による選出)

第4条 総会では次の方法により役員を選出する。

(1) 候補者数が第2条第1項により告示された定数と同数の役職は、総会運営規程第7条の規定に基づき選出する。

(2) 候補者数が第2条第1項により告示された定数を越える場合には、投票により選出する。

(投票)

第5条 投票は、第2条第1項により告示された定数に応じて、無記名連記方式で行う。

2 投票用紙は会場で有権者に配布された所定のものを用いる。

3 当選者は、役職ごとに得票数の多い者から当該定数を選出する。ただし、得票数が等しい場合は抽選によって順位を定め選出する。

(規程の変更)

第6条 この規程は、総会の承認を受けなければ変更することができない。

附 則

(施行期日)

この規程は、2005年4月23日から施行する。